

平成21年度事業計画

はじめに

平成20年度は非常に厳しい経済状況となり、上半期は燃料高騰によるコストの増、下半期は100年に一度と表現される未曾有の経済危機と激動の1年でありました。

平成21年度に起きましても引き続き非常に厳しい経済環境となります。

当地域におきましても一層の努力を要求されることとなり、当センターの果たす役割、要求も厳しいものになると考えております。

こうした中で、平成21年度事業の方針はTango Good Goods認定事業を核とし、全国的に流通可能な商品となるよう、問題点を改善・指導するとともに、新販路の開拓に重点をおき、以下のとおり事業を遂行していく所存であります。

1 新製品、新技術の開発研究

(1) 織物開発

ア 京都府織物・機械金属振興センターはじめ業界団体・研究グループとの連携の下、研究開発棟の活用を図り、織物に関する普及・啓発に寄与する。

イ 織物実演を通して丹後ちりめんの産地としての啓蒙、PRを目指し、積極的な観光客の受け入れを行う。

(2) 染色開発

ア 染色グループ「網野染色研究会 茜」の活動拠点として施設を提供しながら染色技術の向上を図るとともに、ちりめんを素材とした新たな商品開発を目指し、染色技術の普及、指導に努める。

イ 絹織物の町としてのイメージが強い当地域の魅力の一つとして染色をとらえ、染色への関心、興味を高めるため染色教室や観光客・地域住民を対象とした体験実習等を実施する。

(3) 新商品開発の研究・支援

地域をアピールする特産品開発について製造者とともに研究・開発について支援する。

(4) 新商品開発セミナーの開催

Tango Good Goodsアイテムの高質化及び認定基準に照らしあわせた新商品の開発、商品の改良、消費者ニーズの把握に基づく商品開発セミナーを開催し、製造者のスキルアップに資する。

2 需要の拡大

(1) 地場産品の常設展示即売事業

当センターの重要な機能及び事業の柱の一つである地場産品のPRを目指す常設展示即売事業は、「丹後ちりめん」をはじめとした地場産品約1700品目に及ぶ製品を展示して来館者の注目を集めている。

今後も、年間を通して丹後を訪れる観光客をはじめ地域内外へも取扱品情報を発信するなど幅広く宣伝・啓発し、販路開拓とともに消費者ニーズの把握による需要拡大に努めたい。

特に丹後ブランド商品認定事業で認定する丹後ブランド商品のアピールの場としての活用を強化していく。

(2) 丹後ブランド商品の認定

◇ 事業開始以来11年目を迎えるTango Good Goods認定事業を今年度も実施し、製造者の「ものづくり」を奨励・支援し、販路開拓の意欲高揚を図るとともに、丹後ブランド商品のコンセプト確立とそれに基づくブランドイメージの定着化を図り、流通及び需要の拡大・開拓を推進していきたい。

◇ 食品業界については、表示偽装の問題などにより、より厳格に、一元化された表示基準が設けられることとなっており、認定品としてコンプライアンスはもとより、着色料、保存料等についても再度製造者の意識を高め、Tango Good Goodsとしての質的向上を図る。

◇ 認定品へのTango Good Goodsロゴシール貼付指導を推進し、地域ブランド商品として差別化を図る。

(国・京都府補助事業)

(3) 丹後ブランド商品の販売促進と見本市開催

第11回目となる丹後ブランド産品見本市を宮津市において開催し、丹後ブランド認定商品を中心とした地場産品の地域内PR及び流通促進を図る。

(京都府補助事業)

(4) 通信販売システムの充実

新販路の開拓を目指し、歳暮・中元期の通信販売カタログは、徐々に成果を上げてきており、今年度も広く一般消費者を中心に、また職域等の利用展開も図る。

(京都府補助事業)

(5) 丹後ブランド商品販売促進支援事業

店舗販売のみならず丹後産品をより広く紹介、PRするとともに新販路の開拓を目指し、大都市の主要ターミナルをはじめ各種展示会、物産展、公共施設等での展示会に積極的に出展する。

(6) 商談会の開催及び出展（新規）

地域外での販路の開拓を目指し、各業種に適したトレードショーを選定、設定するとともに、効果的なビジュアルマーチャンダイジングをとおして製造者の商品提案力強化及び新販路の開拓に資する。

また、新規の取り組みとして地酒及び丹後の食材をマッチングさせた試飲・試食商談会を京都市において開催する。

(国・京都府補助事業)

(7) ふるさと雇用再生特別事業（新規）

地場産品製造者の現状を把握し、販路開拓と地産都消をコンセプトに都市部等における販路を確保するとともに、売れる商品の開発指導を行う。

(8) 京都丹後ブランド産品会の支援

平成12年度にTango Good Goods認定事業者のなかから地域外へもその販路を開拓する意欲のある事業者で発足した「京都丹後ブランド産品会」の活動を支援し、販売促進に繋がる展開を図る。

(9) 丹後ブランドチャレンジショップ運営事業

大都市圏での丹後情報の発信、地場産品PRを推進することを目的とし、京都市内に開設したホッと丹後を継続運営する。

(京丹後市補助事業)

(10) 他団体との連携

ア 丹後産品のPR事業のみならず丹後観光を積極的にアピールすることを目的として、丹後広域観光キャンペーン協議会・京丹後市観光協会等との連携強化に資する。

イ 丹後地域内地場産品製造業者と他地域の製造業者をマッチングし、スケールメリットによる展示会・広報を展開することを目的として、京都府商工会連合会及び他地場産センターとの連携強化に資する。

3 人材の育成

即戦力となる人材養成のための知識、技術の習得を目的とした各種教室を開催する。

(1) 着物着付け教室

和装に親しみ、自ら着用できる人材の養成を図るため、京丹後市高等職業訓練校と共催で引き続き、着物着付け教室を開催する。

(2) 丹後産品開発講座

地域特産品の開発力の強化及び習得、意識の高揚を目指し、各種講座を実施する。

(3) ちりめん講座

当地域を代表する地場産品である丹後ちりめんにスポットを当て、ちりめんの歴史、繭から製品までの製造工程を実際に体験し、丹後ちりめんを次代につなげる人材の育成、啓蒙を図る。

(4) その他

地域住民が関心を持ち、創作意欲を促すような講座の開設に努める。

4 情報の収集提供

(1) 情報の収集提供

展示即売室における日々の顧客、商品、販売情報の収集に取り組み、販売データを分析、加工、提供し、アミティ情報の発行により各種情報をタイムリーに提供し、業者の経営に寄与するとともに、業者との意思疎通の一助に資する。

(2) インターネットの活用（新規）

ホームページを通してセンター情報及びT a n g o G o o d G o o d sの情報発信を行う。

平成19年度に統合・リニューアルした（センター紹介ホームページ、T a n g o G o o d G o o d s紹介ホームページ、京都ブランド産品会ショッピングサイトの3サイト）ホームページをより充実、アクセス増を図るとともに、近畿経済産業局管内地場産業振興センターと連携し、ショッピングモールの開設を目指す。

(3) 地域情報発信事業（新規）

京丹後市が地域の活性化と豊かな市民生活を実現することを目的として整備・活用するケーブルテレビ事業と連携し、当センター内に地域情報の発信基地としてのスタジオを設置する。

このことにより、地場産品やセンター事業等をタイムリーに地域へ発信し、コミュニティ施設としての機能の充実を図るとともに、ケーブルテレビを利用した通信販売等新販路の開拓に資する。

5 管理

(1) 施設管理

開館23年を迎え、施設の老朽化が進み修繕の必要な部位が多発している。

来館者の利便を図るため、細かな維持管理に努める。とともに、財

源の確保について最善を尽くす。

(2) 会場提供

当センターの施設利用は、地域の厳しい経営環境を反映して、利用率低下の傾向が見られる。

今後、より一層の施設の有効活用と利用促進を図るため、施設のPR及び整備計画の検討を行い、利用者へのサービス向上に努める。

(3) 展示即売室ギャラリー活用事業

地域の地場産品をはじめ伝統・歴史・技術などを紹介する地域コミュニティとしての活用の場とする。

京都府が所蔵する優れた美術工芸品の鑑賞機会を広く府民に提供する府民ギャラリー事業を活用し、コミュニティ施設として人が集い、明るい話題を提供する。

(4) 経営管理

最小限の人員で最大の効果を見込むよう、さらなる節減に努める。

(5) 公益法人制度改革

平成20年12月に施行された公益法人制度改革により、当財団は特例民法法人となっており、平成22年度以降の法人移行に向け、調査及び準備を行う。

6 その他

(1) たんご朝市

豊かな丹後の農林水産物や手づくり品を持ち寄り、観光客や地域の方々に豊かな資源や食材を楽しんでもらえる場を提供してきた「たんご朝市」も開始以来9年目を迎える。

今後も出展者及び地域との連携を深め、より多彩な「たんご朝市」となるよう努力していくとともに、日頃の利用に対し感謝イベントを開催する。